

科目名	日常生活活動学演習							授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2	後期		
【授業の目的・ねらい】 疾患別の日常生活活動の評価方法や指導方法を学び、それらを身につける 臨床実習に生かす MTDLPの基礎を学ぶ												
【実務者経験】 作業療法士として順心会幸生病院、介護老人保健施設夢前白寿苑にて、身体障害領域・老年期領域のリハビリテーションに従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 疾患別の日常生活活動の特徴や方法について演習を通して学ぶ												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 脳血管疾患の対象者の日常生活活動の基本的な方法を指導できる（基本動作、排泄動作、更衣動作等） 頸髄損傷の対象者の日常生活活動の基本的な方法を自分でできる												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	オリエンテーション 脳卒中片麻痺の疾患・機能障害の概要が理解できる										配布プリント	
2	脳卒中片麻痺の起居動作を自身で行うことができ、指導・介助ができる										配布プリント	
3	脳卒中片麻痺の移乗動作を自身で行うことができ、指導・介助ができる										配布プリント	
4	脳卒中片麻痺の移動動作を自身で行うことができ、指導・介助ができる										配布プリント	
5	脳卒中片麻痺の更衣動作・排泄動作・食事動作を自身で行うことができ、指導・介助ができる										配布プリント	
6	脳卒中片麻痺の入浴・コミュニケーションを自身で行うことができ、指導・介助ができる										配布プリント	
7	頸髄損傷の疾患・機能障害の概要を理解できる										配布プリント	
8	頸髄損傷の基本動作（起居・移乗・移動）を自身で行うことができ、指導・介助ができる										配布プリント	
9	頸髄損傷の食事・排泄・更衣を自身で行うことができ、指導・介助ができる										配布プリント	
10	頸髄損傷の整容・入浴を自身で行うことができ、指導・介助ができる 環境制御装置等を理解できる										配布プリント	
11	パーキンソン病										配布プリント	
12	関節リウマチの日常生活活動の注意点を説明できる										配布プリント	
13	神経筋疾患の日常生活活動の注意点を説明できる										配布プリント	
14	呼吸器疾患の日常生活活動の注意点を説明できる										配布プリント	
15	その他の疾患とまとめ										配布プリント	
定期試験												
【使用教科書・教材・参考書】 作業療法学 ゴールドマスターシリーズ 日常生活活動学（ADL）メジカルビュー												
【準備学習・時間外学習】 学んだ内容を定着させるため、復習を毎回行う。 実技に関しては、身につけることができるまで、練習を行う。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 小テスト30点、実技試験35点、定期試験35点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する												